

日大人 百花繚乱

日大人

株式会社草むしり代表取締役
ぐんま100kmウォーク
実行委員長
宮本 成人さん
昭和62年法字部管理行政学科卒業

草むしりにやりがいを見つけた瞬間 社会に必要とされる自分がいた

一度人生のどん底まで落ち、崖っぷちの状態でも「草むしり」と出会い、復活を賭けた男がいる。そして自分の原点である大学時代の成功体験を振り返り、100kmを歩くイベントも実現させた。再起を果たし、自分の限界にチャレンジする宮本成人さんの人生やり直しストーリー。

ニツチな草むしり事業に手応え

草刈り機がエンジン音を響かせると、茂った雑草がみるみるとなぎ倒されていく。
「土の中に回転刃を入れ込むのがコツ。そうすると雑草を根こそぎ刈り取ることができるんです」
今から9年前、草むしりや植木の剪定、庭木の伐採などを行う会社を立ち上げ、軌道に乗せてきた宮本成人さんが日に焼けた顔で笑う。

起業した当初は、1日30〜50枚ほどのチラシを印刷して自らポスティングして歩き回っていたが、1週間に1回依頼の電話が鳴る程度だった。

「毎日ヒマでやることもなく、近くの公園で無償で草むしりをしていただほど。それでも50軒にチラシを配ると1件受注があることに気づいて、200枚、300枚とチラシを増やしていったんです」

現在は前橋ICから半径5km以内を営業圏にお得意さまは500軒を超え、一緒に働く仲間も8人を数えるまでに成長した。

起業するまでに職を転々とし、何度も人生を投げ出しそうになった宮本さんだが、「たかが草むし



【右】「草むしりは決して楽な仕事ではないが、大きなやりがいがある」と宮本さん
【左】100km歩くと、「感謝・感激・感動」の大切さに改めて気づかされるという



- ①草むしりマスターの面々が大集合
- ②会社のロゴと日本語ドメインのURL
- ③草刈り機の回転刃は毎日チェックする
- ④草刈り機でスピーディーに仕事をこなす
- ⑤伐採した木の枝を荷台に積み宮本さん
- ⑥今年も大盛況だったぐんま100kmウォーク
- ⑦100kmを完歩したあとの喜びの記念撮影
- ⑧詳細なコース説明が記された参加説明書



◆プロフィール
宮本 成人(みやもと・しげと) 昭和40年長野県生まれ。本学卒業後、農業団体職員、日本拳法海外普及・指導員、市役所臨時職員、飲食フランチャイズチェーンでのサラリーマン生活を経て、独立を図るも挫折。植木屋でのアルバイトを転機に、平成21年に草むしりで起業を果たす。平成23年から全日本実業団対抗駅伝競走(ニューイヤー駅伝)のコース100kmを歩き、イベント化。その実行委員長も務めている。

りですが、この仕事を通じて社会に必要とされていることを実感したんです。お客さまの中にはきれいになった庭を見て感動のあまり涙を流す方もいらつしゃいます」と、今ではやりがいを口にしている。
宮本さんは自身の経験をもとに、仕事をリストアップされたり、挫折を味わった人になんとか立ち直るきっかけをつかんではしと「草むしりマスター」制度を設け、無償で45日間の研修を終えた人には、草むしりでの起業をサポートをしている。「草むしりマスターは今はまだ17人。2045年までに1000人に増やすのが目標です」

100kmウォークで自分の限界に挑戦!

宮本さんは草むしりの仕事の傍ら、「ぐんま100kmウォーク」の実行委員長の肩書きを持つ。「7年前に一人でニューイヤー駅伝と同ルート歩き、100kmウォークを始めたのです。その理由を一言でいうと、原点回帰。自分の原点は、苦しい練習に耐え抜いて全日本学生拳法選手権で優勝した日大拳法部にあると思っています。転職を繰り返していた自分を見つめ直し、日大拳法部時代の自分にもう一度戻りたかったのです」と、振り返る。

5回目からは一般からも参加者を公募。今年8回目となる大会には、健常者だけでなく、車いすでの参加者や伴歩者と一緒に行く視覚障害者を含む400人弱が参加するイベントまでになった。

「自分の限界に挑戦しながら、普段気づかない周囲への感謝や、感動を味わってもらうことが大会の目的。完歩できれば大きな自信につながります」と、100kmウォークの意義を語ってくれた。